

経営者が語る自分史

「マイウェイ」

マツオカ建機 代表取締役会長

松岡 美江子氏

5月1日から 連載開始!

学びと実践の日々

私の夫で当時マツオカ建機の社長だった、松岡崑（たかし）が急逝したのは、1999年8月3日だった。享年61歳。超ワンマン社長が前触れなく亡くなったことで、社葬や新体制への移行準備などに追われる日々が続ぎ、悲しんでいるひまもなかった。

当時の私は肩書きこそ取締役だったが、経理全般を担当する金庫番。経理以外の営業、製品開発、労務など社長任せだった。

非上場企業の社長選びは事業承継問題も含めて、人選は限られる。私が、最終的には金庫番から業務全般について意思決定を下す社長に就任することを決めた。

当社の主力事業は建設機械などのレ

マツオカ建機代表取締役会長

松岡 美江子 1



ンタルだ。得意先は建設機械を扱う建設・土木事業者だ。従業員も男性中心で、昭和のおじさん文化だ。女性社長とすることで当初は戸惑いがなかったわけでもないが、先代の急逝に伴う緊急登板ということで、得意先や仕入れ先の皆さまに応援していただいたと思う。

ただ、経営は文字通り素人。56歳からの社長デビューで、経営とは何か真剣に向き合うことになった。座学や社外の研修などで文字通り「経営」を学びながら、実際に経営する日々だった。もっとも、経営の勉強と実践は想定以上に刺激的だった。偉大な経営者の

先代の急逝で緊急登板

筆者近影

著書やセミナーを通じて学んだことを会社で実践することで、社員みんなが元気に働き、組織として成長し、業績も向上することを経営者としての醍醐味（だいごみ）を味わうことができた。

もちろん、本社を構える三重県川越町の地の理、時の運に恵

△プロフィール▽まつおか・みえこ
愛知県立岡崎商業高校卒。1968年松岡威商店（現マツオカ建機）入社。1999年社長就任。2018年から会長。岡崎市出身。82歳。

.....
まれました。中部電力（現JERA）の川越火力発電所や中部国際空港の開港、キオクシア（元東芝）の四日市工場の新増設など多くの工事の需要が急増した。

先代から社長を引き継いだころの売上高は約30億円だったが、マツオカ建機を含むミライリスホールディングスの売上高は約150億円（2026年3月期）と急拡大した。

私の人生や経営者の経験が女性社長や将来管理職をめざす女性にとつて少しでもお役に立てばと思います、執筆することにした。2カ月程度、お付き合いください。

